

## 泉田 友美 さん

横手市平鹿町  
<https://izuasuta.wixsite.com/izu-3>  
《Instagram》@izu.handmade

《作品取扱店》  
道の駅十文字 まめでらが〜  
横手市十文字町字海道下21-4

食堂cafe Amush(アマシュ)  
横手市十文字町大道東54-24  
《Instagram》@sc.amush



あきたこまちのリングブローチ(左上)  
下左から、おにぎりのネクタイピンと  
ブローチ、クリアピアス

さらに翌年、「面白いリンゴがある」と聞いて紅の夢に出合う。美しい果実を見て規格外や傷ものを生かしたいと思った。こうして数が増えていった「横手シリーズ」。自家製の米は粒を生かし、黒く染めた十文字和紙を巻いて、おにぎり風アクセサリーにした。

農業の傍ら、作家活動に励む日々。新たな素材を求めて生産者の元に取り出ることもある。「横手には面白いもの、強みになるものがたくさんある。横手シリーズを増やしていきたい」と目を輝かせる。

輝く素材は、  
すぐそばに

MY  
GALLERY  
私のギャラリー

TOMOMI IZUMIDA

レジンアクセサリー



「リンゴを詰め込んだブローチ」

皮が濃い赤で果肉まで赤いリンゴ「紅の夢」。その皮、実、葉を天日乾燥して細かく刻み、透明なレジン(樹脂)で固めてリンゴ型のブローチに。実や葉の部分それぞれに、本物のリンゴのやわらかな色を閉じ込める。

増田産紅の夢をはじめ、自家製のあきたこまち、山内産のソバの実、復活を遂げた伝統の木綿織物「横手縞」、十文字和紙など、地元横手市の素材を取り入れたさまざまなアクセサリーを制作している泉田友美さん。

「横手のことを知ってもらうきっかけになれば」と、地域の宝に目を向ける。

以前は都会と比べて「何も無いところ」と感じていた古里。進学を機に都内で12年間過ごし、同じ横手出身の夫が実家の農業を継ぐことになった2015年、夫婦で地元に戻ってきた。その翌年、テレビで横手縞を知り、作家を訪ねて「横手にこんな素晴らしい工芸があるのか」と感激した。東京時代から作っていたアクセサリーに素材として取り入れることにした。